立ち読み版

特集2 中小企業白書の受験対策

第1章

令和3年度第1次試験対策

「2020年版中小企業白書」のポイント

播野 晋介
日本マンパワー講師／中小企業診断士

1 前年版中小企業白書の位置づけ

中小企業診断士第１次試験（以下，１次試験）科目である「中小企業経営・中小企業政策」において，前年版中小企業白書からの出題が占める割合は，およそ40％（中小企業経営が全体の50％，そのうちの８割が，前年版中小企業白書からの出題）にのぼる。

１次試験科目の中で，出題の出典元がこれほど明らかなのは，この科目における前年版中小企業白書だけと言ってもよい。よって，ここで確実に得点することが１次試験合格への近道であることに疑いの余地はない。

少なくとも，この科目を受ける受験者としては，前年版中小企業白書からの出題のうち７～８割（点数にして，30点程度以上）は確保しておきたい。

令和３年度受験者にとっては，「2020年版中小企業白書」（書籍としては，「2020年版中小企業白書・小規模企業白書（上巻）」）が前年版中小企業白書にあたる。

また，「2021年版中小企業白書」は，令和４年度試験の受験者にとって，重要な出題元となる（第２章参照）。

2 前年版中小企業白書の出題のされ方

(1) 出題内容

１次試験の過去問を確認すると，前年版中小企業白書について問われているのは，概ね中小企業に関する数値や数値傾向である。それ以外では，各種アンケートの回答や，稀には白書に出てくる言葉の意味が問われることもある。

(2) 出題箇所

出題対象となる前年版中小企業白書本文には，マクロ的な視点からわが国中小企業の全体像について分析した第１部と，ミクロ的視点から個別中小企業にとっての課題を取り上げた第２部以降，さらに付属統計資料，という３つのパートがある。

直近５年の過去問を確認すると，各パートからの出題割合は，以下のようになっている。

・第１部：34％（85設問中29設問）
・第２部以降：52％（85設問中44設問）
・付属統計資料：14％（85設問中12設問）

(3) 出題形式

１次試験の他科目に比べて特徴的なのは，文章の穴埋め問題が全体の４割超を占め，それ以外では文章の形をとっている選択肢の中から，最も適切なものや，最も不適切なものを選ばせる形が４割あり，この２つの形式を合わせると，８割を超える。

3 2020年版中小企業白書の出題ポイント

ここからは，令和３年度の試験対策として，「2020年版中小企業白書」（「2020年版中小企業白書・小規模企業白書（上巻）」）の出題ポイント等について確認していくことにする。

なお，筆者は本試験の出題者ではないため，あくまで過去問の傾向から，出題可能性が高いと思われるポイントを挙げているに過ぎないことをご理解いただきたい。

受験者の基本的な学習としては，同白書を，目次～各章各節のまとめ～本文精読，という流れで読み込んでいくことで，同白書全体として言いたいことをしっかり確認することが望ましい。ただ精読する際は，各部各章において以下に挙げるポイントを意識して（メモなどをとりながら）読み込んでほしい。

(1) 第１部の出題ポイント

①直近５年の過去問で問われているポイント

第１部と付属統計資料から出題される場合は，問われるポイントの切り口が似通っている。平成28年度から令和２年度の中小企業経営・政策において，前年版中小企業白書第１部から出題されているポイントを以下に示す。

【平成28年度】
・売上高経常利益率の規模間格差の推移
・売上高固定費比率と売上高変動費比率の規模間格差

【平成29年度】
・中小企業数の推移
・小規模企業と中規模企業の企業数の推移
・建設業，小売業，製造業の規模別企業数増減
・企業規模別経常利益の推移と変動要因
・規模別に見た資産規模の推移
・中小企業の労働生産性推移
・企業数で見た中小企業の構成比
・業種別労働生産性の比較＋大企業平均比較

【平成30年度】
・中小企業の売上高と経常利益の傾向
・中小企業の設備投資の推移
・企業数と従業者総数で見た中小企業構成比
・企業規模別従業者数の変化
・開業率と廃業率の推移（全体，業種別）

【令和元年度】
・規模別（大・中・小）に見た企業数増減
・業種別に見た企業数減少割合
・常用雇用者数別及び設立年別企業数分布
・常用雇用者規模別に見た1984年以前設立企業数の推移
・中小企業の付加価値比率の業種別比較

【令和２年度】
・中小企業の売上高，営業利益，総資産，純資産の分布状況
・中小企業における赤字企業割合の推移
・中小企業の業種別労働生産性の推移
・開業率と廃業率の推移（全体，業種別）

②第１部「令和元年度の中小企業の動向」で問われそうなポイント

過去問のデータ（上記）をもとに，令和３年度試験において，2020年版中小企業白書第１部から押さえておきたいポイントを確認していく。

第１章「中小企業・小規模事業者の動向」からは，第２節「中小企業・小規模事業者の現状」の設備投資・ソフトウェア投資・研究開発投資（Ⅰ－９～）の項を確認したい。特に，第１－１－11図「設備投資の目的」については，出題されやすいポイントと思われる。また，第３節「人手不足の状況と雇用環境」の第１－１－46図「働き方改革関連法の工程表」（Ⅰ－37）は，企業経営理論でも問われそうなポイントであり，確認しておきたい。

⇒続きは雑誌で